

5月12日は「看護の日」

奮闘!沖縄の若き看護師たち

「知・技・心」の看護めざす

喜友名 奈美さん(26)

琉球大学医学部附属病院

琉球大学医学部附属病院の内分泌・血液内科病棟に勤務する喜友名奈美さん(26)＝読谷村出身。看護大学卒業後、入職。同院独自の「静脈注射教育プログラム」の指導者資格を取得した看護師の一人。病棟内では最年少で取得した。

医療従事者を目指す気持ちが芽生えたのは小学生の頃。自宅で倒れた祖母を発見した。「何もしてあげられなかった」という悔しい思いで、臨床検査技師を目指したが「検体ではなく患者に直接かかわりたいと思うようになった」。

同病棟には離島出身で、長期間家族と離れ入院生活を送る患者も

患者・家族を支えるプロへ

少なくない。ある60代男性の娘さんから「1年間家族になってくれてありがとうと言われた時は、うれしかった」と涙ぐむ。今でも病院説明会で聞いた同院看護部長の話が忘れられない。「注射は経験を積みば上達する。大切なのは病氣と闘う患者を支え、共に歩めるか」。白衣の天使は、知・技・心を兼ね備えてこそ。目標が定まった瞬間だった。

今の目標は「がん化学療法認定看護師になること」。抗がん剤治療の副作用を看護で和らげたいと思っている。これまでに看護の理想と現実と悩んだ時期もあったが

「今は業務の意味が見えてきて、やりがいを感じている」。入職4年目、患者に寄り添うケアとは何かが、分かり始めている。

★大城和江副看護部長の話

喜友名さんは真面目でいつも笑顔を絶やさず、患者さんからも信頼されています。当院では静脈注射のスキルアップを図る院内研修プログラムがあり、喜友名さんは基礎コース、指導者コースの認定を受けました。看護師4年目の先輩として今後は後輩たちの指導も大事な役割のひとつになります。



琉球大学医学部附属病院内科病棟に勤務する喜友名奈美さん。入院患者のバイタルサインのチェックや生活介助などが仕事＝西原町



★きゆうな・なみ

26歳、読谷村出身。沖縄県立看護大学卒業後、琉球大学医学部附属病院へ入職4年目。